

## 今週の為替相場見通し(2016年5月16日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		107.03 ~ 109.57	108.65	106.00 ~ 110.00
ユーロ	(ドル)		1.1283 ~ 1.1447	1.1310	1.1200 ~ 1.1450
(1ユーロ=)	(円)		122.10 ~ 124.65	122.77	122.00 ~ 125.00
英ポンド	(ドル)		1.4340 ~ 1.4532	1.4358	1.4250 ~ 1.4500
(1英ポンド=)	(円)	*	154.27 ~ 158.49	156.04	155.50 ~ 158.50
豪ドル	(ドル)		0.7254 ~ 0.7403	0.7268	0.7000 ~ 0.7350
(1豪ドル=)	(円)	*	78.71 ~ 80.66	78.99	76.00 ~ 80.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

## 1. 米ドル

為替営業第二チーム 坂本 真史

(1)今週の予想レンジ: 106.00 ~ 110.00 円

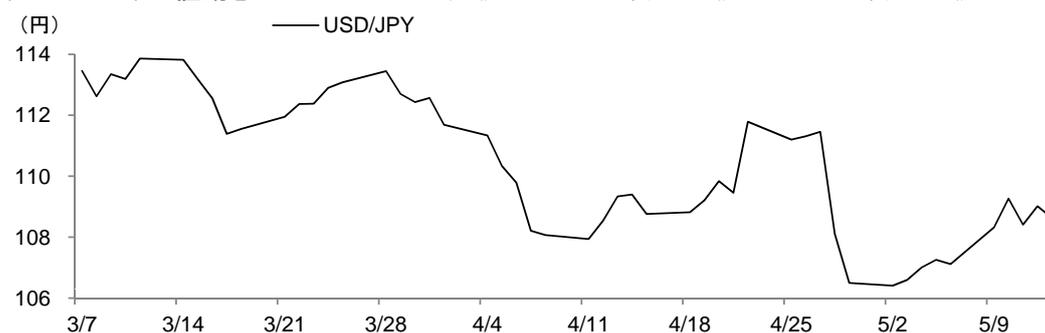
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は堅調に推移した。週初9日、ドル/円は107円台前半でオープン。週安値となる107.03円をつけた後は、カナダの森林火災を受けた原油価格上昇を背景に日欧の株が強含みに推移したこと、米4月労働市場情勢指数が予想比良好な結果となったことなどがサポート材料となり、108円台半ばまで上昇。翌10日、麻生財務相が「米為替報告書で日本の為替政策は制約されない」、「一方的に偏った状況なら介入するのは当然」と明言したことで介入警戒感が強まる中、ドル/円は109円台前半まで一段と強含んだ。週央11日、日経平均株価が上げ幅を縮小する中、ドル/円の上昇に一服感が拡がるとドル買いの勢いは緩み、ドル/円は108円台半ばまで下落。翌12日、日経平均株価が反発したことや、6月の日銀金融政策決定会合における追加緩和観測報道などを受け、ドル/円は再び109円台を回復。更に週末13日、発表された米4月小売売上高や米5月シンガン大学消費者マインドが予想を上回ったことでドル/円は109.57円の週高値をつけた。しかし、上値では売り意欲も相応に強かったことや、その後米株が大きく下落したことで、ドル/円は108円台半ばまで下げて越週した。

今週のドル/円相場は上値の重い展開を予想する。今週は、17日(火)に米4月消費者物価指数(CPI)が発表され、市場では前年比+1.1%と予想されている。予想以上の伸びが確認されれば、一旦はドル/円のサポート材料となり得ると考えるものの、この材料だけでは上値は重そうだ。先週は11日(日中高値:109.38円)、12日(同:109.40円)、13日(同:109.57円)と日中高値が109円台半ばとなる日が続き、同水準での上値の重さが確認された。特に13日は予想比良好な米4月小売売上高の結果が米6月利上げ観測の高まりに繋がったものの、米株が大幅下落したことなどからドル/円は週高値109.57から108円台半ばまで下落してクローズしている。仮に米4月CPIが良好な結果となったとしても、この動きに倣った展開になり得よう。また、18日(水)に本邦1~3月期GDPが発表される。前期比年率+0.1%という予想通りのプラス成長であれば市場の反応は限定的となるだろう。しかし、仮にマイナス成長だった場合、政府による景気刺激策への期待が俄かに高まり、日経平均株価の上昇、引いてはドル/円の上昇に繋がることは想定される。但し、今月はG7首脳会合が予定されており、政府による政策発表は行われるとしても会合後になると考えられることから、ドル/円が大きく上抜けすることにはないだろう。

## (3)先週までの相場の推移

先週(5/9~5/13)の値動き: 安値 107.03 円 高値 109.57 円 終値 108.65 円





### 3. 英ポンド

(1)今週の予想レンジ: 1.4250 ~ 1.4500 155.50 ~ 158.50 円

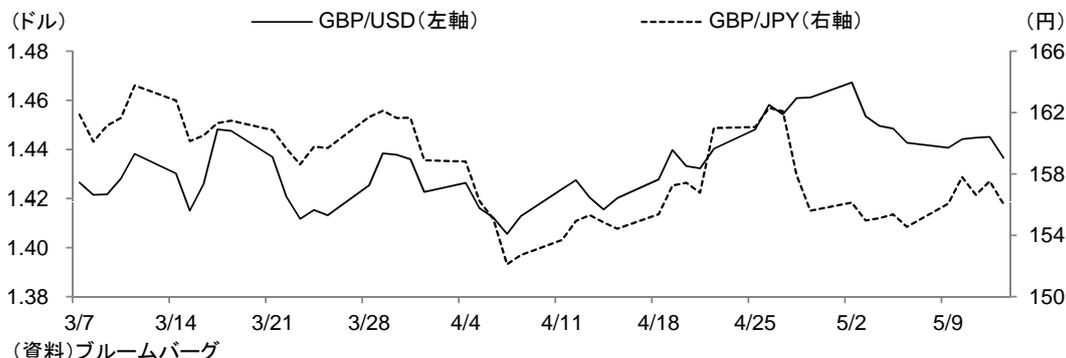
#### (2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、堅調気味の小動きが先行。12日には対ドルで1.4532、対円で158.49円とそれぞれ週の高値まで上昇したが、その後週引けに掛けて失速。特に対ドルでは3週間ぶりの安値となる1.4360まで下落して、そのまま安値圏で引けた。12日には英中銀金融政策委員会の決定、同議事録と四半期インフレ報告書が予定されており、市場の注目は一連の発表に集まっていた。その前に、ハリファックスの2~4月住宅価格(9日)、英3月貿易収支(10日)、英3月製造業/鉱工業生産(11日)、王立公認会計士協会(RICS)の4月住宅価格(11日)などが発表されたが、注目イベントを前に市場の関心は低く、ポンドの細かい上下動にどこまで影響したかも定かではなかった。英中銀金融政策委員会による基準金利の0.50%、資産購入額上限の3750億ポンド据え置きはいずれも市場の予想通りだったが、発表直後からポンドは対ドル、対ユーロで上昇。背景としては、前月に引き続き、結果発表前に「2票の利下げ票が投じられる可能性がある」との観測が広がっていたことが考えられた。実際は9対0の全会一致であった。インフレ報告書は議論の多くを「英がEUを離脱した場合のリスク」に割いていたが、報告書の経済/物価予想自体は残留を前提に作成されており、市場としても、どう反応したものか困惑した様子。前後して対ドル、対円共それぞれ上記高値をつけたが、ほどなく反落。その後週引けまでのポンド軟調の要因は、ユーロへの連れ安とドルの全面高とが相次いだ結果と考えられた。ユーロ軟調の背景には、12日、独大手製薬会社による米農業製品メーカー買収(総額430億ドル)観測が考えられた。週引けに掛けてのドル全面高は13日に発表された米4月小売売上高の上振れが要因視された。

今週の英ポンド相場は方向感を欠いた膠着を予想。ただ、対ドルではもう一段水準を切り下げる可能性を警戒する。今週は17日(火)に英4月CPI、18日(水)に1~3月英失業率(ILO基準)、同平均賃金、19日(木)に英4月小売売上高などの主要経済指標の他、16日(月)にライドムーブの5月住宅価格、17日(火)に英国家統計局の3月住宅価格など住宅関連指標の発表を控えるが、英中銀インフレ報告書が示したように、英経済を取り巻く最大の不透明感は6月23日の「英のEU残留を問う国民投票」の成否にあり、その結果を見るまでポンドが一方に値動きを傾ける展開は考え難いのではないかと。対ドルでの下落を警戒するのも、ポンド安を見込むわけではなく、ドル高を見込むということ。米連銀金融政策の先行きに関しては、6日発表された米4月非農業部門雇用者数の伸び悩みで「6月追加利上げの可能性は一段と遠退いた」というのが市場全般の共通認識と考えられていた。確かに長期金利は低位安定を続けているが、ドルの値動きだけを見ていると、「本当にそれが共通認識なのだろうか」と疑問に思ってしまう。13日の米4月小売売上高に対するドルの反応も、6月の追加利上げ観測が本当に大幅に後退しているとしたら、たかが単月の数字に余りに過剰な反応に見える。また、仮に、6月の利上げが見送られるとしても、英国民投票が「残留」で片付くという前提で、7月利上げの可能性は(6月以上に)十分に考えられよう。果たして、ドルの先行きを占う上で、6月利上げと7月利上げの間にどれだけの差があるだろうか。ただし、こうした見通しが、原油価格の高止まりを大きな前提としている点には留意が必要であろう。

#### (3)先週末までの相場の推移

先週(5/9~5/13)の値動き: (対ドル) 安値 1.4340 高値 1.4532 終値 1.4358  
(対円) 安値 154.27 高値 158.49 終値 156.04



#### 4. 豪ドル

(1) 今週の予想レンジ: 0.7000 ~ 0.7350 76.00 ~ 80.00 円

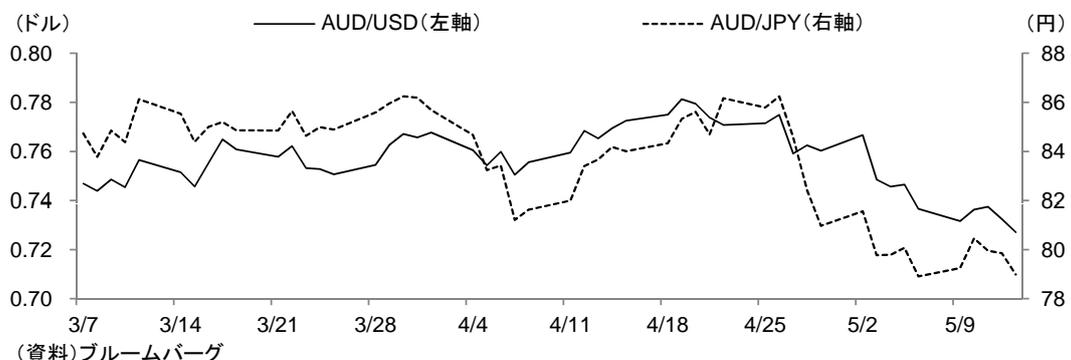
##### (2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は下落が一服したかのように見られたが、週末にかけて水準を切り下げる展開となった。週初9日、ドル買いの影響により豪ドル相場は弱含んだ。豪ドルは0.736付近、対円では78.8円付近にてオープン。カナダ山火事による原油産出量減少との思惑から原油相場が上昇するもすぐに反落したことで、豪ドルは0.731付近まで下落した。対円ではドル買いの動きを受けてドル/円が上昇したことから79.2円付近まで連れ高となった。翌10日、リスクセンチメントの改善から豪ドルは反発した。中国4月CPIおよび生産者物価指数(PPI)が予想比まずまずの結果だったことが好感され、豪ドルは0.737近辺まで、対円では80円半ばまで上伸した。また2日連続で▲3%弱の下落を見せていた上海株が下げ止まったことも好感された模様だ。11日も反発が継続。アジア時間は若干小緩んだものの豪ドル相場の堅調地合いは変わらなかった。NY時間に入り、EIA米週間石油在庫統計で予想外の在庫減となったことから原油相場が上昇したことで豪ドル買いが強まり、豪ドルは週高値となる0.7403をつけた。一方、豪ドル/円はドル/円の上昇に達成感が拡がり、ドル/円が下落したことで連れ安となり79円半ばまで下落した。12日は上昇が一服。ニュージーランド準備銀行(RBNZ)による利下げ期待が後退したことを受け、NZドルを買って豪ドルを売る動きが見られたことで、豪ドルは0.731付近まで反落した。豪ドル/円はドル/円の反発を受けて一時80.4円付近まで反発した。13日も続落。豪ドルは0.7330付近にある移動平均線を下抜けたテクニカル要因から弱い地合いが継続し、豪ドルは週安値の0.7254まで下落、豪ドル/円も78.8円付近まで続落するなど、対ドル・対円ともに軟調な値動きのまま越週した。

今週の豪ドル相場は豪州準備銀行(RBA)の利下げの影響とテクニカル要因から一段の下落を予想。5月3日にRBAが0.25%の利下げを実施したことで、豪ドル相場は月初より対ドルで約5%下落している。6日に発表された四半期金融政策報告にてインフレ見通しが引き下げられたことで、追加利下げ観測が高まっており引き続きRBAによる緩和スタンスを受けた豪ドル弱気相場は継続するだろう。また、先週11日のRBNZの半期金融安定報告にて住宅価格抑制の追加措置が打ち出されなかったことで、追加利下げ観測が後退しNZドル買い、豪ドル売りが強まっていることも豪ドル弱気地合いをサポートすると考える。先週の下落局面では移動平均線や一目均衡表の雲の下限を割り込むなどテクニカルなサポートレベルを下抜けしており、豪ドル安地合いに拍車がかかる可能性も考えられる。注目は17日(火)に発表されるRBA金融政策決定会合の議事要旨。前会合の声明文において明示されなかった今後の金融政策についての記述に注目が集まる。

##### (3) 先週までの相場の推移

先週(5/9~5/13)の値動き: (対ドル) 安値 0.7254 高値 0.7403 終値 0.7268  
(対円) 安値 78.71 高値 80.66 終値 78.99



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。